



北海道大学 環境健康科学研究教育センター主催  
WHO環境化学物質による健康障害の予防に関する  
研究協力センター指定三周年記念 市民講演会



# SDGsを考える

～暮らし・教育・健康～

2018年 10月17日 水 18:00-19:30

(17:30開場)

北海道大学 百年記念会館大会議室 (札幌市北区北9条西6丁目)

要 事前申込み  
参加費 無料

## 演題

「環境首都」をうたう札幌市から「環境&都市生活」、「持続可能な開発のための教育」の視点から「環境&教育」、環境と人々の健康に関する長年の調査結果から「環境&健康」をテーマに講演を行い、参加者のみなさまに、環境+αによるSDGsの達成について問いかけます。



持続可能な開発目標 (SDGs) と札幌市の取組

佐竹 輝洋

札幌市環境局 環境都市推進部 環境計画課



持続可能な世界に向けて:世界と地域をつなぐキーワードSDGs

山中 康裕

北海道大学大学院 地球環境科学研究院



環境と健康の視点でとらえるSDGs

湊屋 街子

北海道大学 環境健康科学研究教育センター

後援 札幌市 / 札幌市教育委員会 / 北海道

申込み  
お問い合わせ

北海道大学 環境健康科学研究教育センター 担当:三浦・阿部  
TEL 011-706-4746 / FAX 011-706-4725 / E-mail info@cehs.hokudai.ac.jp  
申し込みはTEL・FAX・E-mailまで。\*座席に余裕がある場合のみ当日参加を受け付けます。



持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）は、2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193か国が2016年～2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。貧困に終止符を打ち、地球を保護し、すべての人が平和と豊かさを享受できるようにすることを目指す普遍的な行動を呼びかけています。



◆ 司会

山内 太郎 北海道大学大学院 保健科学研究院 兼 環境健康科学研究教育センター

藏崎 正明 北海道大学大学院 地球環境科学研究院 兼 環境健康科学研究教育センター

■ 開会の辞

小笠原 克彦 (北海道大学大学院 保健科学研究院 兼 環境健康科学研究教育センター)

■ 活動報告

「WHO研究協力センターとして3年余りの活動を振り返って」

岸 玲子 (WHO 環境化学物質による健康障害の予防に関する研究協力センター 兼 北海道大学 環境健康科学研究教育センター)

■ 講演

「持続可能な開発目標（SDGs）と札幌市の取組」

佐竹 輝洋 (札幌市環境局 環境都市推進部 環境計画課)

持続可能な開発目標（SDGs）は、「No one will be left behind（誰も取り残さない）」を理念とし、全ての主体が持続可能な社会の形成に向けて取り組む目標です。近年、この目標の達成に向けて政府や企業、そして自治体も取り組みはじめており、札幌市では2018年3月に策定した「第2次札幌市環境基本計画」において、環境施策の推進をSDGsの達成に繋げていくこととしています。本講演では、SDGs達成に向けた札幌市の取組について紹介します。

「持続可能な世界に向けて：世界と地域をつなぐキーワードSDGs」

山中 康裕 (北海道大学大学院 地球環境科学研究院)

国際社会から地域社会まで、先進国から途上国まで、あらゆる社会課題が、SDGsの17目標のもとで語れるようになりました。SDGsを用いれば、地域課題も、国際社会で取り組むべき課題に出来ますが、そうでなければ、説明責任を果たしていないと見なされてしまいます。また、持続可能な社会は、絶えず、いち早く社会課題に気づき、改善できる社会です。私たちには、その実現のため、相手を想像し、立場を超えて対話することが求められます。

「環境と健康の視点でとらえるSDGs」

湊屋 街子 (北海道大学 環境健康科学研究教育センター)

私たちはだれもが健康な生活を送りたいと願っています。健康には、私たちの身の回りの環境が大きく関係しています。SDGsの17目標のひとつ「すべての人に健康と福祉を」を軸に、「環境×健康」という観点から、私たちがどうSDGsに取り組めるか、具体的にできること、今日から始められることを、一緒に考えていきたいと思います。

